

新晃工業

業務用空調機器の総合メーカー、新晃工業（社長 末永聡氏、本社・大阪市北区）の2020年を振り返ると、製品面では「健康空調」の市場投入がまず挙げられる。

「健康空調」は、不特定多数が集まる空間の空気を取り込み、超高出力の紫外線ランプを照射することで浮遊細菌やウイルスを分解・除去し、浄化した空気を室内に供給する仕組み。

コロナ収束不透明で

注目の「健康空調」

「健康空調」は、強力な紫外線（UVC）照射で浮遊細菌、ウイルスを除去し、クリーンな空気を再供給するもの。病院では院内感染を防ぐために様々な安全対策が取られているが、外来患者や見舞客など不特定多数が入り出す待合室、エントランスでは外部から持ち込まれた細菌やウイルスが浮遊している。

「健康空調」に搭載しているUVCランプについては、新型コロナウイルス感染症への有効性が専門家によって認められた。公益社団法人空気調和・衛生工学会が昨年9月7日に発表した「新型コロナウイルス感染症対策としての空調設備を中心とした設備の運用について」

紫外線を照射することでウイルスを不活化するなどの根本的原因を取り除くことが有効」としている。同工学会は改訂二版の中で、「インフルエンザA型ウイルスやSARS-CoV-2（新型コロナウイルス感染症の原因となるウイルス）のような

一本鎖RNAウイルスの場合、紫外線に曝露されると塩基配列が壊れ、複製機能が喪失する」とし、「0.1mw/平方センチメートルの強度なら21秒間照射で90%のウイルスが不活化になることが予測される」としている。

さらに、既存空調設備に付設する大空間向け除菌システムの実証実験を空間除菌（本社・東京）、東洋熱工業（本社・東京）、NSFエンゲージメント（本社・東京）の3社とともに3千人規模のコンサートホール「Zepp Handa」で複数回行った結果、システムの有効性を確認した。一方、生産に関するトピックスでは空調機の設定や生産を次世代型に進化させることを目指す「SIMA」プロジェクトの取り組みがある。空調機の生産について次世代型への進化を図るもので、空調機的设计・生産に関する各種ノウハウをデジタル化し、各業務を新しいかたちで融合させる革新的な空調機生産方式を構築する。神奈川県秦野市の同社神奈川工場隣接地に建設を計画している新工場で実現を目指すという。2021年の動向が注目される。

（改訂二版）の中で指摘しているもの。新晃工業では「ウイルス感染リスクを低減するには室内全体に循環する空気への対策が必要」とし、コロナによるウイルスの捕集に加え、空調機内で

（Tokyo）（東京都大田区）で複数回行った結果、システムの有効性を確認した。一方、生産に関するトピックスでは空調機の設定や生産を次世代型に進化させることを目指す「SIMA」プロジェクトの取り組みがある。空調機の生産について次世代型への進化を図るもので、空調機的设计・生産に関する各種ノウハウをデジタル化し、各業務を新しいかたちで融合させる革新的な空調機生産方式を構築する。神奈川県秦野市の同社神奈川工場隣接地に建設を計画している新工場で実現を目指すという。2021年の動向が注目される。